

雨水浸透施設の維持管理等に関する共同研究

全体期間

1997.8～1998.5

(目 的)

近年、都市化の進展に伴う雨水の流出を抑制するための一手法として、雨水浸透事業の促進が図られており、この事業の計画・効果・施設の設置等に関する知見は各方面の努力により充実しつつある。しかしながら、雨水浸透施設の維持管理に関する適切な方法、基準等については問題点の解決策を見いだしていない部分も多々あることが指摘されている。

そこで本研究において、雨水浸透施設の維持管理に係わる実態を調査・分析するとともに、施設の設置工事や浸透機能を保持する上で、維持管理が適正に行えるための「雨水浸透施設シンボルマーク」を制定し、今後の雨水浸透施設の普及に役立てることを目的とした。

「シンボルマーク」の制定意義は 1) 雨水浸透施設への関心の高揚 2) 雨水浸透施設への汚水系統の誤接合防止 3) 機能を保持するための適正な維持管理の実施のために制定。

(内 容)

1. 雨水浸透施設を設置している都市において、維持管理方法に関して調査・整理を行い、浸透機能維持のための有効な技術的事項および制度等を分析する。
2. 雨水浸透施設の維持管理が適正に行えるための「シンボルマーク」を制定する。
3. 「シンボルマーク」をより多くの人に理解を得るためのパンフレット等を作成する。

(結 果)

1. 雨水浸透施設の維持管理に関する調査結果
 - 1) 雨水浸透施設の浸透能力は、設置後10年で約50%程度までに浸透能力が低下する。
 - 2) 維持管理による浸透能力は、浸透マス・透水性舗装の清掃・洗浄を行うことにより、回復が可能であるが、浸透マスにゴミ取りのためのフィルター等の設置を必要とする
 - 3) 適切な維持管理のためには、維持管理体制の確立（特に地方公共団体と住民の連携・協力）が必要である。そのためには、雨水浸透施設にシンボルマークを設置し、その機能を明らかにすることは住民へのPRも含め有効である。
2. 「雨水浸透施設シンボルマーク」の制定

「雨水浸透施設シンボルマーク」は、シンプルで・親しみやすく・機能を明確に を基準に、「雨水浸透施設シンボルマーク審査選定委員会」での3回の審査協議を経て『かえる』をモチーフにしたキャラクターとした。また雨水浸透施設の普及を呼びかける、キャッチコピーを『ひろめよう雨水浸透』と決定しこれらをデザイン化した。

共同研究者：財団法人 下水道新技術推進機構

エバタ(株)、(株)クボタ、積水化学工業(株)、日本ヒューム管(株)、羽田ヒューム管(株)

研究担当者：前田 正博、村田 清次、間瀬 毅

キーワード

雨水浸透, 維持管理, シンボルマーク